

成長に合わせて見守る 発達のかたち

子供の発達状況を正しく知るためには、乳幼児期、学童期、青年期、それぞれの段階における発育・発達について知っておく必要があります。

ここでは、子供の成長の段階ごとに育っていく力や、日々の中で大切に見守っていきたい点をまとめているので、日常の子供の行動を観察しながらチェックしてみてください。

***発達のスPEEDには個人差があります**。気になる点があったからといって必ずしも発達障害の疑いがあるわけではありません。

乳幼児期

出生～生後6か月前後の子供に発達障害の特性が見られることはほとんどありませんが、1歳6か月～3歳頃になると「自閉スペクトラム症」(P6)、5歳前後になると「注意欠如多動症」(P7)や「限局性学習症」(P8)の兆候が見つかることがあります。乳幼児健診を積極的に受診することが早期発見・早期支援につながります。

乳幼児健康診査の主なチェック内容

*乳幼児健診の内容や実施時期は区市町村によって異なる場合があります。

- 生後1か月児健診** 出生後の体重増加や全身の健康状態、母乳・ミルクを飲む量など。
- 3～4か月児健診** 首のすわりや股関節の状態、発声や目の動き、声かけへの反応など。
- 6～7か月児健診** おすわりや寝返り、動くものを目で追うようす、表情の変化など。
- 9～10か月児健診** つかまり立ちやハイハイの状況、人見知りといった精神面の発達など。
- 1歳6か月児健診** 積み木遊びや独り歩きのようす、言葉の理解、コミュニケーションの発達など。
- 3歳児健診** 階段ののぼり方、生活リズムや身の回りのことをするようす。ものの大きさ、長短、色の違いの理解。二語文、視聴覚の発達状況など。
- 5歳児健診** 片足で体を支える動き、情緒やコミュニケーション能力の発達状況、集団生活への適応のようすなど。 *自治体により実施状況は異なります。



就学時健診とは？▶ 小学校入学のおおよそ半年前に行われる健診です。内科・眼科・歯科の検診や教員との面談を通して、学校生活を送るうえで配慮が必要な点や疾患などがないかを、入学前に確認します。



- この時期の育ちのようす
- ・食事、排泄、睡眠など、基本的な生活習慣が身に付く
 - ・情緒的な絆が深まり、人に対する信頼感が育まれる
 - ・自分を大切に思うと同時に、他者の気持ちになってものごとを考えるようになる など

学童期

(小学校低学年)

この時期の子供は幼児期の特徴を残しながらも、大人の言うことを守る中で、善悪について理解・判断ができるようになります。また言語能力や認識力も高まり、さまざまなものに興味を持ちはじめます。

この時期の
育ちの
ようす

- ・人としてやってはならないことについての知識や判断力が育まれる
- ・集団生活のルールを守ることができるようになる
- ・自然や美しいものに心を動かす感性が育まれる など



学童期

(小学校高学年)

自分のことや身の回りに起こった出来事がある程度、客観的に捉えられるようになるのがこの時期です。また集団活動に自分から参加したり、自分たちでルールを定めた遊びを新たに創造できるようにもなります。

この時期の
育ちの
ようす

- ・自己肯定感(自分を大切に思う気持ち)や他者への思いやりの気持ちが育まれる
- ・自分とは違う考え方や、ものの見方があることを理解・容認できるようになる
- ・集団の中での自分の役割を自覚し、責任感をもってそれに取り組めるようになる など

青年前期

(中学校)

思春期に入った子供は、自分の中に親や友人とは異なる“独自の内面世界”があることに気づき、自意識と現実とのギャップに悩むようになります。親よりも友人関係に時間を割くようになり、仲間同士の評価も気になりはじめます。

この時期の
育ちの
ようす

- ・悩みながらも自分を見つめ、課題と向き合おうとする意識が芽生える
- ・他者と協力しあいながら、自立して生きる力を身に付けようとする
- ・法律や社会のルールの意味を知り、守る大切さを理解する力が育つ など

青年中期

(高等学校)

親の保護下にあった子供の時代から、自立した大人へと移行する最終段階にあたります。さまざまなことに苦悩する思春期から一歩脱して、社会でどう生きるかを真剣に模索するようになるのもこの時期です。

この時期の
育ちの
ようす

- ・自分の個性や得意なことに気づき、進路について考え始める
- ・他者の善意や支えのありがたさに気づき、感謝の気持ちを持つようになる
- ・社会の一員としての自覚が育ち、責任ある行動を心掛けるようになる など

この章を読んで気になる点、不安な点があった方は、発達障害に関する支援やサポートを行っている公的機関にまずは相談してみてもいいでしょう。発達段階ごとに相談窓口は異なるので、年齢や状況に応じた窓口を選んでください。

CLICK **P13**